

平成23年緑化推進運動功労者  
内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

[個人]

又吉 康 仁 (沖縄県那覇市)

[団 体]

- ※ 高松コスモスライン運動推進協議会 (秋田県湯沢市)
- 尺丈山「百樹の森」 (茨城県常陸大宮市)
- 森づくりボランティア協議会
- ※ 四方ガーデニング愛好会 (富山県富山市)
- 興津川保全市民会議 (静岡県静岡市)
- キリンディスティラリー株式会社 (静岡県御殿場市)
- 富士御殿場蒸溜所
- 南伊豆町農業振興会 (静岡県賀茂郡南伊豆町)
- 蟹江町 (愛知県海部郡蟹江町)
- 特定非営利活動法人 自然回復を  
    試みる会 ビオトープ孟子 (和歌山県海南市)
- ※ 世羅町立伊尾小学校 (広島県世羅郡世羅町)
- 東温市立西谷小学校 (愛媛県東温市)
- ※ 特定非営利活動法人 天明水の会 (熊本県熊本市)
- 鹿児島市立吉田北中学校 (鹿児島県鹿児島市)

※ は国土交通省推薦分

[団 体]

---

たかまつ うんどうすいしんきようぎかい  
高松コスモスライン運動推進協議会

---

所在地 秋田県湯沢市高松字上地6番地2

代表者 会長 大友 一郎

---

<功績の概要>

昭和60年、秋田県湯沢市高松地区に県道湯沢栗駒公園線のバイパス道路が完成し、当地区への交通アクセスが改善された事を契機に、地域の活性化に向けた話合いが行われ、昭和62年4月、訪れる観光客を花で迎える美化運動「コスモスライン」運動(以下「運動」と称する。)が計画、提唱された。

この運動は、バイパス沿いの老人クラブが主体となり、約1kmにわたってコスモスの種を蒔いたことが第一歩となる。その後、直播きから育苗・移植に変更。苗植えには市立高松小学校の児童も参加し、異世代間交流と地域づくり運動推進の手応えを感じるようになった。

平成元年には植栽範囲を2km、翌年には7kmまで延伸し、地区全体の運動へと拡大した。これに伴い、関係団体の話合いにより、種子採取と育苗は老人クラブ、年に3～4回の除草作業は各集落の自治会が担当することになった。

平成3年4月には運動の推進組織「高松コスモスライン運動推進協議会」が結成され、平成6年春には高松地区の入口にミニ公園「コスモスパーク」が完成し、運動に一層の花を添えている。

現在では、地域の事業所の協力も得て、植栽延長が14km、約6万本を植え付けし、緑化意識の高揚を積極的に推進した地域活動を展開している。

[団 体]

---

よ か た                      あ い こ う か い  
四方ガーデニング愛好会

---

所 在 地      富山県富山市四方田町45番地2号

代 表 者      代表 蛭谷 忠夫

---

<功績の概要>

平成元年に四方自治振興会を母体として設立された同会は、電車の廃線跡地に整備された、約100mに及ぶ自転車・歩行者道路の両脇に花壇づくりを行い、訪れる人々を楽しませている。また隣接する小学校・保育所へ花壇づくりの指導を継続的に行い地域の緑化活動に大きく貢献している。

これらの活動により、小学校・保育所や地域の住民といった広い世代間でのふれ合いと交流が生まれ、「人の和(輪)」が広がっている。

県内外の花壇コンクールにおいて優秀な成績を修めると同時に、(財)花と緑の銀行が主催する「富山県花のまちづくりコンクール」において、平成17年より5年連続で、最高評価の五つ星推奨花壇に認定されるなど、模範的花壇として評価を受けている。

また、(財)花と緑の銀行が平成21年より実施している、「とやまオープンガーデンマップ」に参加しており、毎年県内から多くの花づくりグループが視察に訪れるなど、富山県の花づくりの勉強や交流の場として大きな役割を果たしている。

[団 体]

---

せらちようりついおししょうがっこう  
世羅町立伊尾小学校

---

所 在 地 広島県世羅郡世羅町伊尾1969番地1

代 表 者 校長 計田 春樹

---

<功績の概要>

同校では、環境学習を中心に、地元住民、行政が支援する形でギフチョウ保護区での希少種であるミヤコアオイの保全、移植や河川区域内の保護区の草刈活動等、環境整備に取り組んでいる。活動は、地元住民だけでなく、多様な団体と連携し、活動を分担して実施している。

保護活動は観念的なものでなく、ギフチョウの観察、研究を行うとともに、研究成果を県内外に発表し、自然保護思想を啓発するなど、保護の実践につながるような活動を行っている。

これらの活動は、今後の自然保護活動の一つのモデルを提示するものであり、地域全体に生き物と暮らしを結ぶ楽しさを伝えている。

<主な功績>

- ギフチョウ保護区におけるミヤコアオイの植草活動
- ギフチョウ保護区の草刈り活動

[団 体]

---

とくていひえいりかつどうほうじん てんめいみず かい  
特定非営利活動法人 天明水の会

---

所在地 熊本県熊本市川尻4丁目7番25号

代表者 理事長 濱邊 誠司

---

<功績の概要>

同団体は、平成5年、有明海からアサリが消えかけたことに端を発し、豊饒の海を取り戻すため、緑川上流域の山に、全国に先駆けて「漁民の森」として植林を始めた。以来、水の大きな循環を通して地球環境を考え、会員の自主的な活動によって地域の発展と文化の向上を目指したまちづくりや人材育成を目指している。

具体的な活動として、漁民の森、天明未来の森、若者の森など上流域における植林活動や下草刈り、下流域と上流域のネットワークづくり、小、中、高校生を対象とした自然体験や環境教育等を行うとともに、「森の学校」を作り拠点づくりも行っている。特に平成13年度からは農林水産省の補助事業である「漁民の森づくり活動推進事業」に取り組み、子どもたちや地域住民と共に、緑川流域をはじめとする県内の山々に多くの森づくりを行い、現在もその活動を継続、発展させている。

平成15年4月にはNPO法人の資格を取得した。活動に当たっては、他団体にも幅広く参加を呼びかけ、現在までに延べで参加団体数50以上、参加人員は6,000人にのぼっており、参加団体間での交流が生まれるなど、環境保護のみでなく教育、地域連携にも大きな成果がみられる。